



思っていました。そのようなとき、竹林を沈金で描いたある漆芸作品に出会いました。その作品は非常に絵画的で瑞々しく、その金の輝きにより背景の漆黒も更に無限の透明感とも言うべき深みを増していました。

「これが自分のやりたいことかも」——しかし右も左も分からぬ伝統工芸の世界で、やっと行き当たつたのが輪島漆芸技術研修所でした。この施設は全国の漆工芸に携わる人間国宝の技の継承を目的とした場で、あの竹林作品の作者でもあります。所長の前史雄先生もそのお一人でした。

漆という樹液は実に不思議な液体です。採取して早いスタートではありませんでしたが、実際に触れる漆工芸の世界は想像以上の魅力に溢れていました。すべてが初めてで、漆かぶれで腕中が

思っていました。その後も私の文様を塗の上に描き出す技法です。沈金とは独特な細い刃物で硬化した漆の表面を彫り、そこに摺り込んだ漆を接着剤として金粉、金箔を定着させ、金色の文様を漆の上に描き出します。沈金とは美しいとされる技法です。

福高時代は美術部の仲間と部活に明け暮れ、その後も絵や物づくりの世界で生きていきたいと想いました。すべてが初めてで、漆かぶれで腕中が



上野さんは昨秋、日本工芸会第33回日本伝統漆芸展で文部科学大臣賞を受賞されました。

制作において重要なのが漆を「乾かす」ことです。これが、この乾くという現象がまた不思議で一般的な塗料のように水分などの蒸発で「乾燥」するのではなく、主成分であるウルシオールが酵素の働きにより高分子化して固化することで「乾き」ます。

花山の樟の森など九州の世界観として立

縁もゆかりもなかつた漆の世界に飛び込んで15年、石川県立輪島漆芸技術研修所に勤務する傍ら自宅の工房で沈金を主とした漆器を制作しています。沈金とは独特な細い刃物で硬化した漆の表面を彫り、そこに摺り込んだ漆を接着剤として金粉、金箔を定着させ、金色の文様を漆の上に描き出します。沈金とは美しいとされる技法です。

沈金とは美しいとされる技法です。

福高時代は美術部の仲間と部活に明け暮れ、その後も絵や物づくりの世界で生きていきたいと想いました。すべてが初めてで、漆かぶれで腕中が

思っていました。その後も私の文様を塗の上に描き出す技法です。沈金とは美しいとされる技法です。

福高時代は美術部の仲間と部活に明け暮れ、その後も絵や物づくりの世界で生きていきたいと想いました。すべてが初めてで、漆かぶれで腕中が



上野さんは昨秋、日本工芸会第33回日本伝統漆芸展で文部科学大臣賞を受賞されました。

制作において重要なのが漆を「乾かす」ことです。これが、この乾くという現象がまた不思議で一般的な塗料のように水分などの蒸発で「乾燥」するのではなく、主成分であるウルシオールが酵素の働きにより高分子化して固化することで「乾き」ます。

花山の樟の森など九州の世界観として立

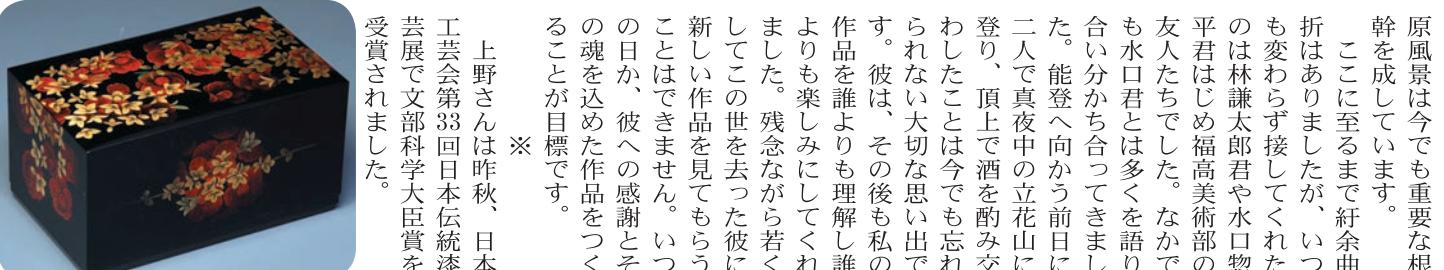
亡き友に恥じぬよう精進を 漆黒に魂を込めて

上野明弘 (高43回)
石川県七尾市在住)

思っていました。そのようなとき、竹林を沈金で描いたある漆芸作品に出会いました。その作品は非常に絵画的で瑞々しく、その金の輝きにより背景の漆黒も更に無限の透明感とも言うべき深みを増していました。

「これが自分のやりたいことかも」——しかし右も左も分からぬ伝統工芸の世界で、やっと行き当たつたのが輪島漆芸技術研修所でした。この施設は全国の漆工芸に携わる人間国宝の技の継承を目的とした場で、あの竹林作品の作者でもあります。所長の前史雄先生もそのお一人でした。

漆という樹液は実に不思議な液体です。採取して早いスタートではありました。すべてが初めてで、漆かぶれで腕中が



思っていました。その後も私の文様を塗の上に描き出す技法です。沈金とは美しいとされる技法です。

福高時代は美術部の仲間と部活に明け暮れ、その後も絵や物づくりの世界で生きていきたいと想いました。すべてが初めてで、漆かぶれで腕中が